



目次

- | | |
|------------------------------|------------------|
| 1. 【あいち防災リーダー会憲章?】について | 会長 太田貴代子 |
| 2. 【うたかたの一時】 | 副会長 増田 武 |
| 3. 【役員会は今~】 | 事務局長 蜂須賀博英 |
| 4. 【研修部だより】 | 研修部副部長 早川 澄男 |
| 5. 【ブロックだより】 | |
| 6. 【特集・新潟中越地震と兵庫県南部地震との被害比較】 | 名古屋大学 福和研究室 倉田和己 |
| 7. 【防災よもやま話—4】 | 名古屋大学 福和伸夫教授 |

「あいち防災リーダー会憲章?」って

会長 太田貴代子

冬將軍の訪れる季節になりました。会員の皆様には寒さに負けず各地域での減災啓発活動のご努力を感謝申し上げます。

今年は水害、土砂災害、台風、地震と相次いで全国各地域で大きな災害をもたらした年になり、いまだに復興の目途の立たない、新潟中越地震等の被災者の皆様には一日も早く復興ができます事を願い、お見舞い申し上げます。

また臨時総会「会則の見直し」を当初11月に開催予定で7月から総務委員会で何回か協議してまいりましたが、まだまだ不十分なために、延期させていただきますこととお詫び申し上げます。

今回、会員からは「あいち防災リーダー会の憲章」について寄せていただきましたから、ご報告いたします。

私達あいち防災リーダーは

1. 『先の災害に遭われた方々の思いを大切に啓発活動を行います』
2. 『先の災害に遭われた方々の悲しみを街の人達(県民)が同じ思いをしなくても済む街にしていきます』
3. 『一人ひとりの命は限りなく重い、この事を常に忘れず活動をいたします』
4. 『常に研鑽に努め、防災の第一線にあるものとして、自らの資質向上に努めます』
5. 『個人の立場や利益のための活動を行わず常に公的な立場で街の人達(県民)のためになる行動をし、減災を目指します』
6. 『活動中に知り得た個人情報や外部に漏らすような反社会活動をいたしません』

憲章については役員会等で検討をする必要がありますが、会員の皆様からもご意見をお聞かせいただきたく思っています。指針を常に心に留め活動したいと願ってもおります。

今後も各地域での防災に対して活発な市民啓発活動の展開をしていただき少しでも災害の減災意識の広まることを期待しています。

うたかたの一時(天空・地上・地中を巡って)

副会長 増田 武

早朝、東南東の中空を貫でつつのメモから。-4等星ほどに煌めく金星、やや右上に下弦の月、さらに右上へ倍ほどの間隔にて木星との斜線上の出会い。静寂な時空を独り占めしています。

初めは室外の物干し場にて眺めておりましたが、刻々と滲みる外寒気には耐えきれずに前夜から用意の観望用の特別席(茶菓子付き)の室内へと避難。普段とくに感じない部屋に、温もりさえ味わいました。

瞳は中空にあれども思考は四方山なあれこれ、今と・回顧が交錯の変遷。

その中から防災に斯かるもの抜粋です。地球表面を素に空と地中を比較、日時と緯度・経度さえ確定させれば光学機器により天体は億光年まで測れます。赤緯・赤経を用いて観望も可能です。さらに、過去の状況・未来の予測もコンピューターとデジタル画像にまとめ得られます。

地球の表面は、望遠レンズ・人工衛星など用いれば山間僻地の風景もほぼ認識できます。

さて、地中(海中下も含み)は、…どの辺りまで観察(測)可能、百・千・万…メートル。多分、宇宙観測とは乖離している。なぜ・どうして、これが悩みの現況(元凶)でしょう。今朝の中越地域の余震5キロメートル、ふと感じたのは、いつも〇時〇分頃、なぜ60秒もの範囲。測定基準が異なるゆえからか・ナ。光と振幅(P・S波)等複数の要因ゆえか・ナ。

さらに、この時代コンピューターで予測計算がなぜ出来ない、地下構造のデータ不足…? 揺れてからやっと〇〇域、震源××キロメートルと漠然な公表で済ましているのが今。航空写真(赤外線撮影)と実体鏡的読み取りを交錯し試行を活用しての努力でしょうが。断層は国内2,000箇所とも唱えられている(地震調査会の活断層は98箇所)、いつ・どの地域で起こるやら予測観測は難しいらしい。断層型の発生は今日も・明日も・千年も・万年も全て包含の難性質。

私達の受容しなければならぬ、であろう海溝型地震は周期をもっていると予測されている。それなりの心構え・対策・対応の準備と訓練も備えられます。

防災への道標は「まず減災への努力から」に尽きましよう。

地震ばかりに留まらず、もっと怖い複合型の災害対策へも…

古の五行説から紐解き、現代の五行ないし、五行説を思索するのも必要な…

[平成16年11月10日 am5~ am6 過ぎへの天体観察中の雑記抜粋]



役員会は今……

事務局長 蜂須賀 博英

11月臨時総会開催を目標に会則の検討を進めてきましたが、総務委員会より役員会に改正案が提出されました。役員会の持ち方に問題があり、根本的なことからやり直すことになりました。貴重な時間を費やしていただきましたが、事務局の詰め甘さからこのような結果になってしまいましたことを、深くお詫び申し上げます。

11月に予定しておりました臨時総会も延期とし、総務委員会において再度検討することになりました。できるだけ早い時期に臨時総会を開けるように役員一同努力してまいります。

*10月以降の役員会と議題

臨時役員会開催 10月10日(日) 於 岡崎市福祉会館

1. 臨時総会開催について
2. 会則・規則改正について

臨時役員会開催 10月18日(月) 於 岡崎市福祉会館

1. 臨時総会開催について
2. 会則・規則改正について

臨時役員会開催 11月3日(水)17:00~ 於 NPO プラザ

1. 臨時総会開催について

第4回 役員会 11月14日(日) 於 刈谷市民会館 イベント会場内

1. 17年度あいち防災カレッジ修了者への入会案内
2. 新潟中越地震への対応について
3. その他

研修部だより

あいち防災リーダーの役割は、

研修副部長 早川澄男

あいち防災リーダー同志の相互啓発により、地域住民さんへの「防災に対する啓発」、「災害を防ぐことはできないが、起きてしまったら、いかに減災をするのか」、そして「復旧対応」などの啓発活動を行うことと考えます。

研修部の役割は、

- 1) あいち防災リーダーの会員の方々への相互啓発の機会を設ける。
 - ① 総会での防災研修およびブロック活動発表の場づくり
 - ② 防災研修会の開催や視察企画提案、
 - ③ 地域や各種団体開催の防災行事や講習の参加要請と参画
- 2) 防災啓発・減災啓発のための道具づくりや啓発資料・資材情報提供
液状化ペットボトルの作り方(ピン&重り)、ロープワーキングの仕方、
防災グッズいろいろ、各種防災啓発かんばんの製作

ブロックだより

*海部ブロック

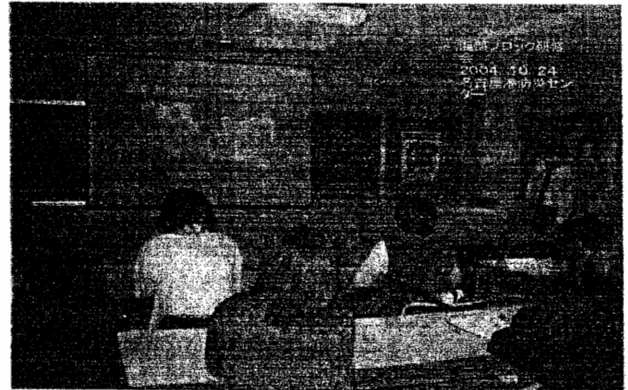
海部ブロック研修会（非常通信訓練・名古屋市港防災センター見学）

去る10月24日（日）海部ブロックで研修会を行いました。

当日は都合良く、県アマチュア無線連盟が企画した「非常通信訓練」が午前中行われ、しかも“佐屋町アマチュア無線クラブ（佐屋町役場内）”が主に行うことを聞き、午前第1部は通信訓練の見学をしました。

災害時通信手段が無い場合、無線の必要性を再確認し無線クラブ会長に講習会等の依頼をお願いしました。

午後第2部は名古屋市港防災センターに至り、防災センター所長の講話・体験コーナー（地震体験等）を行い、最新の防災情報を得ることができ、充実した研修会となりました。



*西三河ブロック

……防災啓発体験活動……

10月30日（日）

岡崎市民まつり消防広場（乙川河川敷殿橋下流右岸）

あいにくの天候になりましたが、大勢の参加者で賑わい、岡崎市赤十字奉仕団、他の団体と共同ブースで、防災啓発活動を行いました。

パネル展示・家具の固定ミニチュアセット・命のパスポート・クイズ・チラシ配布などなど。

一人一人と相対して、大地震への備えを理解していただく為には、

どのように説明したらよいのか？など、大変有意義な啓発体験で活動後「しなべ」のおいしかったこと！



ミニチュアセットで、家具の固定の重要性を説明中！

報告 間瀬



西三河ブロック(豊田地区) 岡本 明

.....防災フェスタIN献部・「親子で学ぶ地震防災」.....10月30日(日)
豊田市立献部小学校(平成16年度豊田市防災教育実践指定校)

参加者 校区区長会・PTA女性会・町発展会・消防団・ボーイスカウト・防災リーダー

今年5月から進められた数々の防災教育活動の成果を、児童たちの手で発表することが出来た一日でした。新潟県中越地震発生の直後でもあり、PTA会員の参加者が予想以上にあり、体験コーナーでは、順番待ちの列ができるほどの大盛況でした。

河合校長より「中越地震は他人事ではない。私たちの身の上に明日起こるかもしれない！」などの講話があり、次いで、あいち防災リーダーとして、「人の命の尊さ・助け合いの大切さ・弱者への思いやり」について話をすることが出来ました。[手作り屋外体験]も行いました。

*名古屋ブロック

11月3日(水曜日・祝) 名古屋市中区栄 久屋ひろばで
名古屋市主催の「名古屋市民防災ひろば」が開催されました。
名古屋ブロックとしては初めての参加でしたが、思った以上に
大好評でブースに立ち寄った人達はロープワーク・ぶるる君・
液状化ペットボトル・子供用、大人用防災カードなど、楽しそう
に参加していました。

ロープワークは何種類もの使い方を親子で一生懸命されてい
ました。

太田会長の作られました家具等固定している・固定していない
もので倒れ方の違いがわかるミニチュア家具セットは子供さんに大人気で子供でもよくわかり納得して遊んで
いました。

また、説明パネルなどから明日起こるかも知れない！と参加者は感じてくれたことと思います。

名古屋ブロック・他ブロックの方々の御支援・御協力により大盛況のうちに終わることが出来ました。

感謝申し上げます。



*東三河・新城設楽ブロック

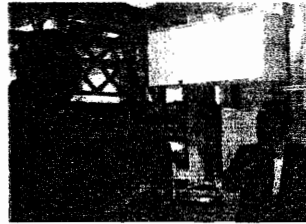
静岡県防災センター研修会

新潟中越地震の発災後まもない、10月27日かねてより計画があり、年1度の研修会を、実行すべきか？悩みましたが、新潟被災状況を報道で見る限り、

防災リーダーの必・重要性を感じ、実行すべきと判断しました。

この研修会の「ねらい」は、当ブロックの防災リーダーのあり方と活動上の課題を共有し、これからの進め方について、バス車内討論会を各自活動報告をしながら、4時間にわたって実施し、次のような優先順位の結論を得ました

1. 各自地元地域へ、減災活動を推進する。
2. 当ブロックの、各自活動を共有し助け合う。
3. 防災協働社会への確立に協力する。
4. 活動費用は、必要最小限に収める。
5. 県リーダー会への協力は、個人負担に限りあり。
6. 当ブロック連絡を密にし、巨大災害に備える。



静岡県防災センターでは、見学後 講演会を実施。20年以上の自主防災組織 活性化の実績の積み上げを、写真やグラフで分かりやすく説明があり、救助車両など配備された「いざ、大災害時で…」車両や装備などは、大きな地震来るといわれて、20年経った結果「大地震におそわれる」事がなかったのも、準備できた。との事でした。また、「自主防災会の活動は次の後継者の育成と、地震防災学の日進月歩の進化を勉強しなければならない。大災害時には自主防災会と声を掛け合うことのできる、最小単位(組ごと)の行動訓練が必要となる」と熱くかたられました。

静岡県防災
センター前
19名参加



訃報

畑中 信一氏
14-235
11月4日
急逝されました
謹んでご冥福を
お祈りします。
(写真 左端)

***知多ブロック**

親子で学ぶ「災害と自主防災」教室の開催について【報告】

知多ブロック 大府市 佐藤喜三

この教室は、平成16年7月31日(土)に大府市長草公民館主催、大府市社会福祉協議会後援で、大府市長草公民館において親子を対象に開催されました。当日は、台風が接近し天候に恵まれませんが、親子4組12名、地域の自主防災会の方10名が参加され、無事終了しました。勉強の内容は



1. 通学路における防災施設について、市及び消防署の職員の説明を聞き、目で確かめ、グループで地図にまとめ、発表しました。
2. 非常食(ハイゼックス)を各自が自分の手で仕込み、試食しました。
3. 食用油を利用して灯かりを作りました。
4. 東海地震、東南海地震がおきたら大府市はどうなるか、阪神淡路大震災等の例を参考にした話を聞

き、地震にそなえてどうすればよいか、グループで話し合い、まとめ、発表しました。

この教室が開催されたきっかけは、平成15年度あいち防災カレッジの地域講座に関連し、当講座の受講生が自主防災会の会長と公民館長にお会いし、お話を伺った際に地域に「あいち防災カレッジの受講者」及び「おおぶ防災ボランティア」があることを知っていただき、公民館長のご尽力により開催されることになりました。

この教室は、長草公民館はもちろん、社会福祉協議会、市役所消防本部、地域の自主防災会、おおぶ防災ボランティアが話し合い、協力し合って、運営されました。



終了後のアンケートでは「とても楽しかった。予想以上でした」という感想もいただきました。また、この教室の一部は、知多メディアネットワークにより知多半島人紀行「おおぶ防災ボランティア」で放送

なお、おおぶ防災ボランティアには、多くの、あいち防災カレッジ及び、県防災ボランティア・コーディネーター養成講座修了者が参加しています。



防災教育に協力して

防災指定校緑ヶ丘小学校から、防災教育に協力して欲しいあったのは、夏休みでした。もし、災害が起きても“その瞬で何とかする!生き抜く!”という強い意志を持った子どもに育い。そんな思いを胸に、計画の段階から先生とお話できたたち防災リーダー3名が中心になり「防災サポーター武豊の一」と一緒に係わらせてもらいました。
ック 武豊町 細川敦子



と依頼が
間”自分
って欲し
ため、私
メンバ
知多プロ

主な活動内容を学年別にまとめてみました。

一年生・・・9/3 親子会 非常持ち出し品づくり 応急手当の方法 起震車体験

*非常持ち出し品、備蓄品、命を守る備えについてのコーナー担当

三年生・・・9/16 ハイゼックスで非常食づくり

* 事前に先生に作り方を指導 写真、ビデオで撮って子どもに教える

* 調理室でグループごとに鍋で作った。出来上がる間に非常食の話をした。お礼の手紙の中に質問がたくさんあったので、意識が高まったと思う

四年生・・・10/7 防災の勉強をする前の導入の話 東浦町磯村さんに依頼

10/13 防災マップづくりのため、防災ウォッチングをする

*コース決めの為事前に何度も歩いたり、学区の地図を用意したり消防の方にも指導してもらった
まだ学期の途中であり反省点もいろいろありますが熱心な先生方と親しくなれ、メンバーとも協力でき良い勉強になりました。微力ですが、これからも防災意識の啓発に努めていきたいと思ひます。



*特集・新潟県中越地震と兵庫県南部地震の被害の比較

名古屋大学 大学院 福和研究室 倉田和己

10月23日に発生した新潟県中越地震は、10年前に発生した兵庫県南部地震以来の大きな被害地震となった。これら二つの地震は、共に内陸の活断層によって発生した震源の浅い地震であり、一部地域で震度7の揺れが観測されたという点でも共通している。そのため、今回の地震の報道では頻りに兵庫県南部地震の被害が引き合いに出され、あたかも同様の災害であるかのような扱いがなされている。ここでは二つの地震災害の違いを、地震と建物の特性、地域の特性の両面から考えてみたいと思う。

表に示すように、

今回の地震の被害量は兵庫県南部地震ほど大きくはない。その一番の原因を挙げるならば、建物の被害が圧倒的に少なかった事であろう。

地震の規模を表すマグニチュードを比較すると、兵庫県南部地震が7.2、今回の最大の地震が6.8であるから、地震のエネルギーは4倍違ったことになる。

そのため強く揺れた範囲の広さもかなり違っている。

兵庫県南部地震では、

震災の帯と呼ばれる20km×1kmの範囲が震度7になったのに対し、中越地方では小千谷市や川口町のごく一部のみが震度7であった。さらに新潟地方は雪国であるため、建物の窓が小さく壁が、積雪や凍害に備えて屋根は軽く、基礎もしっかりしていた。仮に、積雪の多い時期に同じ地震が発生していたら、もっと多くの建物が倒れていたに違いない(雪が2m積もると、その重さは1㎡あたり600kgにもなる)。

報道されている映像を見ると、壊れている建物は明らかに古いものばかりで、それ以外の建物は崩壊を免れたため、人的被害は比較的少なく済んだと思われる。

また、地域の特性も被害と密接に関係している。国勢調査のデータによれば、神戸エリアの人口密度は992人/km²(1995年)、長岡エリアの人口密度は157.5人/km²(2003年)だから、そもそもずっと人が少ない。

人が少ないから建物も少なく、それらの被害は大きくなりようもない。しかし山間の僻地であったがために、今回の災害の特徴とも言える土砂災害に見舞われることとなった。この辺りはフォッサマグナと呼ばれる地質構造で、もともと土砂災害がおきやすい地域である。

今回の地震では土石流による直接被害に加えて、地盤変状によりライフラインと道路が寸断されたため、復旧の支援が大幅に遅れた。土石流は川をせき止めて天然のダムを作り、下流は決壊による洪水の危険にさらされた。加えて強い余震が何度も発生したために、多くの方が長期の避難生活を余儀無くされた。このことにより、被災地域の産業も大きな打撃を受けてしまった。

兵庫県南部地震の被害の様相を一言で言うなら「建物倒壊による多くの死者」であるが、今回の地震の被害は「余震と土砂災害による生活の崩壊」とも言えるだろう。さて、我々が備えるべき地震の被害はどんなものになるのか？あなたは想像できるだろうか。

表 二つの地震の被害量の比較

	兵庫県南部地震	新潟県中越地震
死者	6,433人	40人
負傷者	約4万人	2,857人
全壊建物	約11万棟	2,028棟
半壊建物	約14万棟	4,430棟
経済被害	約10兆円	3兆円(新潟県試算)

※数字は2004年11月17日現在のもの

「防災よもやま話」シリーズ ④過去の教訓を学んでいるか

名古屋大学大学院 環境学研究科 福和伸夫教授



津波常襲地帯での最悪シナリオ

地震に備えるには、そのとき、何が起こるかの想像力が大事になる。少し悲観的な想像を試みよう。

紀伊半島のあるまちを頭に描いて想像してみたい。このまちの近くには、60年前の南海地震の時、9mの津波が襲った。150年前の安政東海地震の時の津波はもっと高かったと言う。そこに再び耐震性の不十分な木造家屋が密集して作ってしまった。当時は、まちの中央に小高い丘があったそうだ。しかし、これを削り取って、海を埋め立て、火力発電所を建設した。隣には石油タンク群を作った。まちの若者が働ける場所を作るためだったと。

しかし、電力自由化の嵐の中で、操業が危ぶまれているようだ。最悪のシナリオを考えると怖い。ドラマ仕立てで、その時を想像してみよう。真冬の夜だとする。

主人公は2階で寝ている発電所に勤める独身の貴方である。

深い眠りの中、強い縦揺れを感じ、目を覚ます。10秒位で強烈な横揺れが襲う。家具が倒れ、もの凄い音がする。揺れはなかなか収まらない。途中、宙に浮いた気がした。死の恐怖を覚える。揺れが終わると急に静かになる。真っ暗闇の中の静寂だ。運良く、家具の下敷きにならず、けがも無いようだ。直ぐに逃げなければ、津波が襲ってくる。寝間着のまま、布団から飛び出す。突然、足に痛みが走る。何かを踏んでしまった。我慢するしかない。部屋のドアを開けようとするが、家がひずんでいて開かない。やむを得ず、何とか窓を開ける。どうも変だ。道路が直ぐそこにある。1階がつぶれている。恐る恐る、窓から道路に飛び降りる。階下でうめき声がする。祖父母だ。真っ暗闇で良く分からない。「大丈夫か」と大声で呼びかける。すると、両親が「大丈夫だ」と答える。次いで、「俺たちが助けるからおまえは早く逃げろ。津波が来る。先に行け。」と叫んだ。やむを得ず、家が密集した狭い道を、高台に走った。裸足なので、足が痛い。左右の家からうめき声が聞こえる。でも振り切れない。突然、道がふさがってしまった。家が倒壊している。これでは通れない。まるで迷路だ。歩き慣れた道なのに、焦る。ゴーッと言う音が後ろからする。とにかく必死で急いだ。何とか高台に上った。周辺にはゼイゼイ言っている人たちが沢山居る。後ろを見ると、所々、火が付いている。その明かりで、家が沢山倒れているのが見える。ちょうどその時、もの凄い音と共に火が消えた。津波だ！ 第1波がやってきた。消防団の友達はどうしているだろう。こんな状況で、あんなに沢山の水門を閉めている余裕なんてなかっただろう。目の前の街は津波に翻弄されている。急に寒さを感じ始めた。

海を埋め立てた発電所では、煙突が揺れ続けている。あちこちで泥水が噴き出し、地面が底なし沼のようになっている。液状化だ！ 発電所も非常停止した。脇にある石油タンクでは、中の油が大きく動揺している。スロッシングがおこっている。タンクから火の手が上がった。とても消せない。別のタンクでは油が漏れているようだ。そこに津波が襲来した。津波が漏れ出た油を街に運んでいる。燃えている家で油に引火してしまった。まずい。街中に火が広がった。もの凄い煙だ。息ができない。山に登るしか無い。夜が明けた。山から見下ろした街は悲惨だ。揺れで壊れた建物。津波で打ち上げられた船とゴミの山。津波を免れた高台の家は黒こげ。もの凄い臭いだ。もう、何も残っていない。両親、祖父母もどうなったか分からない。逃げろと言われたのが最後の言葉だ。

山の中で、野宿しながら、谷川で水を飲み、山菜を採り、薪をしながら、皆で救援を待つ。しかし、救援が来ない。この街に通じるのは、国道42号線一本。この道は、山間を通っている。土砂崩れを起こしていたら通れない。海も、ゴミだらけで船は接岸できそうもない。助けは来てくれるだろうか。隣の漁港町はどうなっただろう。

余り想像したくないことである。しかし、あり得ないと切り捨てることができない話のように思う。家族を失い、家を失い、勤め先も失うかもしれない。同様の地域は太平洋沿岸の各所に残っているのではないだろうか。今一度、六十年前の出来事を思い出し、その時のために、何を備えれば良いか考えてみたい。

***編集後記**

今回担当させていただきました名古屋ブロックの伊藤千恵です。

皆様に御協力いただきましてやっと4号が出来上がりました。初めての編集作業であたふたしながら御心配をお掛けし、暖かく見守りくださりましてありがとうございました。

新潟の地震で忙しい最中、御協力くださいました、福和教授・倉田さんありがとうございました。

みなさまの啓発活動の参考になりましたらうれしく思います。

次号5号の編集担当は東三河ブロックの酒井さんです。

どうぞお楽しみに！

